

日本語日本文学科

人材養成および教育研究上の目的

日本語日本文学科は、日本の文化や社会の根幹をなす日本語と、その結実たる日本文学を広く深く学び、それらを国際的視点に立って捉え直すことにより、豊かな教養と深い洞察力を備え、日本語の高度なコミュニケーション能力を身に付けた広い視野を持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、日本語日本文学への深い理解を基盤として国際化社会で活躍し得る人材、及び専門的知識によって地域社会に貢献し得る人材の養成を目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日本語日本文学に深い関心を持つとともに、学習から研究へと移行するための基礎的な諸能力を有する人材を、選抜試験を通じて選抜します。具体的には国語現代文・古文の読解能力と高水準の文字表記能力を持ち、外国語（英語）および地理・世界史・日本史などの知識を十分に有する人を、一般入学試験を通じて選抜するほか、推薦入試等を実施します。さらに後期日程入試（国語重視の傾斜配点）によって、特に国語能力の高い人を選抜します。また、編・転・学士入試によって、他大学から日本語日本文学の修学を強く希望する学生を選抜します。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本語日本文学を専門的に学べる学科が減少する中、日本語日本文学科では日本語と日本文学に関する枠組みのしっかりしたプログラムを基本とし、さらに比較文学をカリキュラムの3本目の柱とすることにより、より広い視野から専門性の高い教育を行っています。少人数教育を徹底するために演習科目に重点を置き、1年次では「日本語日本文学基礎演習」、2年次で各分野の「調査研究法」3年次の「演習」を経て、必修である卒業論文に至る段階的なカリキュラムを構築しています。特定の時代やジャンルに偏ることのない幅広いカリキュラム構成の中に、選択科目として地域文化や地域語、芸能などに関する科目を設け、学生の多様化する興味、関心に応えています。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業のためには、共通科目を最低限履修したうえで、日本語日本文学の専門科目のみならず関連する諸科目の単位を取得することはもちろんですが、何よりも必修科目である卒業論文を重視しています。1年次より段階的に演習形式の科目を積み上げ、その最





終過程として卒業論文を書くことにより、深い専門的知識のほかに、調査能力、文章表現力、独創性を育み、国語教員、日本語教員といった専門職をはじめ、日本語による高度なコミュニケーション能力を身につけて社会で活躍する有能な人材を送り出します。

